

令和2(2020)年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書

【令和元(2019)年度対象】

令和2(2020)年8月

士別市教育委員会

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（平成 26 年 6 月 20 日改正）

（平成 27 年 4 月 1 日施行）

## 目 次

1. 令和元年度教育委員会の活動状況	1
(1) 教育委員名簿	
(2) 教育委員会会議の開催状況	
2. 教育委員会事務の点検・評価の概要	4
(1) 点検・評価について	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 評価方法	
3. 令和元年度教育推進の重点、施策の基本方針体系	5
(1) 学校教育	6
・基本方針	
・重点的施策・事業	
(2) 社会教育	6
・基本方針	
・重点的施策・事業	
(3) スポーツの振興	7
・基本方針	
・重点的施策・事業	
(4) 文化・芸術の振興	7
・基本方針	
・重点的施策・事業	
(5) 教育・学習環境の整備	8
・基本方針	
・重点的施策・事業	
4. 点検・評価結果に関する評価委員の意見	8
(1) 点検・評価に関する報告書について	
(2) 各施策に対する今後の方向性について	
(3) 総合評価	
5. 令和元年度 個別の事務の点検・評価結果	13
(1) 点検・評価一覧表	
(2) 点検・評価調書	

【添付資料】令和元（平成31）年度士別市教育行政執行方針

## 1. 令和元年度教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員名簿

役 職	氏 名	任 期
教 育 長	中 峰 寿 彰	平成 29(2017)年 10 月 29 日～ 令和 2(2020)年 10 月 28 日
教育長職務代理者	五十嵐 紀 子	平成 21(2009)年 10 月 29 日～ 令和 3(2021)年 10 月 28 日
教 育 委 員	馬 場 千 晶	平成 18(2006)年 10 月 29 日～ 令和 4(2022)年 10 月 28 日
教 育 委 員	加 藤 洋 之	平成 28(2016)年 10 月 29 日～ 令和 2(2020)年 10 月 28 日
教 育 委 員	山 田 敦 久	令和元(2019)年 10 月 29 日～ 令和 5(2023)年 10 月 28 日

### (2) 教育委員会会議

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「土別市教育委員会会議規則」に基づき、市議会の同意を得た教育長及び4人の教育委員が、学校教育をはじめ、社会教育、文化、スポーツなどに関する事務の管理・執行のため、教育委員会規則など例規の制定・改廃並びに教育に関する様々な課題や施策・事業等について議論・審議しています。

令和元年度の各会議においては、事務局から提出された付議案件についての説明を踏まえ、教育委員の質疑・審議のもと、いずれの案件についても決定されています。

また、教育委員会では、教育を取り巻く課題等をいち早く把握するために、各種研修会への参加や学校訪問など、教職員や教育関係者との意見交換を行うとともに、自己研鑽に努めています。

今後においても、教育を取り巻く様々な課題への対応など、十分な審議を行っていく必要があることから、日常的に、事務局をはじめ各教育施設や事業等の在り方について意見交換を行うほか、学校や教育関係施設の訪問、各種研修会への参加など、教育関係者との連携強化を図ることによって、より質の高い教育行政の推進に努めます。

令和元(平成31)年度 教育委員会会議開催状況

回	日程	議事・その他
1	4月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度士別市教育推進の重点について</li> <li>・士別市学校運営協議会委員の選任について</li> <li>・士別市立学校における教職員の働き方改革推進プラン(案)について</li> <li>・士別市教育委員会所管事務各種審議会等委員について</li> <li>・小・中学校運動会及び体育祭出席者について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
2	5月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度士別市奨学生の選定について</li> <li>・士別市学校設置条例の一部を改正する条例について</li> <li>・令和元年度士別市教育委員会補正予算について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
3	6月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年年齢の変更に伴う士別市成人式の考え方について</li> <li>・第2回定例会における一般質問について</li> <li>・オリンピックデーランの開催について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
4	7月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・士別市適応指導教室設置及び管理運営に関する規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市立中学校生徒対外行事参加奨励費支給要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・士別市学社融合推進委員会実施要綱の廃止について</li> <li>・士別市立学校の部活動に関するガイドライン(案)について</li> <li>・士別市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価実施要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
5	8月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告について</li> <li>・修学旅行の引率業務等に従事する士別市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する要領について</li> <li>・令和元年度士別市教育委員会補正予算について</li> <li>・給食費の改定について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
6	8月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から使用する小学校教科用図書の採択について</li> <li>・使用料及び手数料の見直しに伴う関係条例の整理に関する条例について</li> <li>・士別市あさひサンライズホール条例の一部を改正する条例について</li> <li>・令和元年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告について</li> <li>・令和元年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
7	9月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度士別市教育委員会補正予算について</li> <li>・年末年始の休日の変更に伴う関係規則の整理に関する規則について</li> <li>・士別市立学校職員服務規程の一部を改正する規程について</li> <li>・第3回定例会における一般議案及び一般質問について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
8	9月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度士別市教育委員会職員の人事について</li> </ul>
9	10月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度士別市教育委員会職員の賞罰について</li> <li>・令和元年度士別市教育委員会補正予算について</li> </ul>
10	10月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度全国学力学習状況調査における士別市の学力等の分析について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
11	10月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度士別市教育委員会職員の人事について</li> <li>・多寄中学校閉校式について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>

回	日程	議事・その他
12	11月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度士別市教育委員会補正予算について</li> <li>・士別市あさひサンライズホール条例施行規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市あさひサンライズホール管理運営事務取扱要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・総合教育会議の開催について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
13	11月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当面の士別市教育委員会職員の人事について</li> <li>・士別市の教育における当面の施策・事業の検討方向について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
14	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度士別市教育委員会政策予算(案)について</li> <li>・令和元年度士別市教育委員会職員人事異動について</li> <li>・第4回定例会における一般質問について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
15	1月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について</li> <li>・令和元年度士別市教育委員会補正予算について</li> <li>・卒業式の日程について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
16	2月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を活用した士別市における体力等の分析結果について</li> <li>・士別市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市民文化センター条例施行規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市遠距離児童生徒通学費支給規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市立小規模校(特認校)入学取扱要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・士別市立高等学校バス通学費補助要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
17	3月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度士別市学校教職員の人事異動について</li> <li>・令和元年度士別市教育委員会補正予算について</li> <li>・令和元年度士別市公民館活動功労者表彰について</li> <li>・士別市児童生徒大会参加交通費助成規則の一部を改正する規則について</li> <li>・新型コロナウイルスの発生に係る対応について</li> <li>・令和2年度第1回定例会大綱質疑について</li> <li>・今後の日程について</li> </ul>
18	3月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・士別市立学校における教職員の働き方改革推進プランの改訂について</li> <li>・士別市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市教育委員会職員の職名に関する規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市立学校管理規則の一部を改正する規則について</li> <li>・修学旅行の引率業務等に従事する士別市立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する要領について</li> <li>・士別市公民館条例施行規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市招致外国青年就業規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市立学校に勤務する業務技師等の勤務に関する規程の一部を改正する規程について</li> <li>・士別市立青少年指導センター設置規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市就学援助支給要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・士別市学校教職員住宅条例施行規則の一部を改正する規則について</li> <li>・士別市立小学校及び中学校施設の開放に関する規則の一部を改定する規則について</li> <li>・士別市文化・スポーツ大会等参加奨励要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・令和2年度士別市教育委員会職員の人事異動について</li> <li>・今後の日程について</li> <li>・入学式の日程について</li> </ul>
19	3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・士別市特別支援教育支援員配置事業実施要綱の一部を改正する要綱</li> </ul>

## 2. 教育委員会事務の点検・評価の概要

### (1) 点検・評価について

平成18年の「教育基本法」の改正を受け、翌19年6月27日に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価し、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

平成20年度から始まった点検・評価も12年目を迎えるなか、本年度においても「土別市教育委員会教育行政評価委員設置規程」に基づき、5名の評価委員（土別市校長会・土別市社会教育委員の会議・土別市文化協会・土別市体育協会・土別市PTA連合会からの代表者）により、幅広い視点からご意見をいただくことにより、点検・評価の客観性を確保するとともに、今後の施策及び事業に活かすことにより、教育行政の一層の推進を図ることとしています。

### (2) 点検・評価の対象

「令和元（平成31）年度土別市教育推進の重点」に盛り込んだ推進施策と主要事業を、点検・評価の対象としています。

### (3) 評価方法

① 評価方法については、A・B・C・D・Eの5段階評価としており、その他の評価の手法については、個別の主要事業について、その目的・目標・内容に照らして、期待された成果が得られたか、また、その事業の必要性などを客観的視点で点検し、次の基準で評価しています。

「A」：想定どおりの成果が得られたもの。

目標（指標）を達成し、中長期的な目標に向けた取り組みについても、期待する成果があったもの。

「B」：想定した成果は得られたが、さらに、改善を図ることが望ましいもの。

あるいは、目標（指標）の達成が概ね図られたものの、中長期的にはさらに解決を図る課題があるもの。

「C」：想定した成果はほぼ得られたが、さらなる改善の必要があるもの。

あるいは、目標（指標）の達成は概ね図られたものの、中長期的には引き続き解決すべき課題があるもの。

「D」：想定した成果が十分には得られず、見直しなどの検討が必要なもの。

目標（指標）の達成が不十分で、中長期的に改善や見直しが必須のもの。

「E」：想定した成果が得られず、早急に見直しや検討の必要があるもの。

目標（指標）の達成ができず、中長期的に多くの改善や見直しが必須であるもの。

② 教育委員会による点検・評価の客観性を確保するとともに、今後の取り組みの改善・充実に向けて、教育行政評価委員から点検・評価に関する意見や助言を受けています。

### 3. 令和元（平成31）年度教育推進の重点、施策の基本方針体系

施 策	評価事業数	評価調書数
1. 学校教育	11	11
2. 社会教育	11	14
3. スポーツの振興	8	8
4. 芸術・文化の振興	6	12
5. 教育・学習環境の整備	6	6
合 計	42	51

※ 1件の評価事業に対して複数の部署が所管している場合は、それぞれの部署において評価調書を作成しているため、評価調書数の方が多くなっています。

なお、事務事業点検・評価調書のうち「予算額」の欄には、当初予算額を記載しています。



## (1) 学校教育

### ・基本方針

「社会に開かれた教育課程」を理念とする「新学習指導要領」が、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施されます。

その推進に向けては、「学ぶ」ことの本質を踏まえ、「知識と技能」「思考力・判断力・表現力」などの能力を育む教育課程や学校全体で教育活動の改善を進める「カリキュラムマネジメント」の実行のもと、「主体的・対話的で深い学び」の追求を推進します。

### ・重点的施策・事業

- ① 新学習指導要領への移行期間としての取り組みの推進
- ② 授業改善チームによる指導や少人数指導の実施
- ③ 環境教育、消費者教育、防災教育、人権教育、非核平和教育の推進
- ④ 地域資源を活かし、ふるさとを愛する心を育む教育の実践
- ⑤ みよし市や川内村との児童交流学習の実施
- ⑥ 外部講師の活用や、企業の協力による体験的な学びの機会の提供
- ⑦ 中学校部活動のあり方検討
- ⑧ ふるさと給食の充実
- ⑨ 特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実
- ⑩ いじめ・不登校・体罰の防止強化と対応・充実
- ⑪ 生徒個々に応じた東高ならではの教育の推進

## (2) 社会教育

### ・基本方針

生涯学習のまちづくりに向けて、すべての市民の主体的な学びが展開され、その成果が地域で生かされる持続的・発展的な循環を目指すため、「第2期土別市人づくり・まちづくり推進計画」の着実な推進に努めます。

また、文化財の保護・活用や地域に伝わる無形文化財の伝承活動など、地域の伝統文化や歴史を学び、後世に伝えていく取り組みを進め、子どもたちをはじめとする市民の郷土愛の醸成に努めます。

### ・重点的施策・事業

- ① 子ども会活動の充実
- ② 子ども議会・子ども夢トークの開催
- ③ 土曜子ども文化村事業の充実
- ④ 子どもの学習習慣・生活習慣の定着促進
- ⑤ 土別まちづくり塾の充実
- ⑥ 九十九大学・大学院の魅力発信と大学開学50年記念事業の実施
- ⑦ 市民の主体的学習活動の促進
- ⑧ 土別開拓120年関連記念事業の実施

- ⑨ 地域の伝統文化や歴史を学び、後世に継承していく取り組みの推進
- ⑩ 道民カレッジとの連携推進
- ⑪ 社会教育関係職員の研修機会の充実

### (3) スポーツの振興

#### ・基本方針

「健康・スポーツ都市宣言」を踏まえ、「第2期士別市スポーツ推進計画」に基づく取り組みの着実な実行に努めます。

特に本年は、「チャレンジデー」への参加など、スポーツを実践する機会創出に努め、「市民皆スポーツ」を推進します。

本市「地方創生総合戦略」の柱の一つである「合宿の聖地創造」に向けて、合宿の里士別推進協議会の取り組みや「合宿の里ステップアッププラン」の一層の推進に努めます。

4年目を迎える「ホストタウン」では、計画の柱である台湾との交流を進めるほか、台湾の代表選手などの合宿招致に努めるとともに、文化・教育交流の継続・発展や教育旅行招致などの展開を含め、オリンピックレガシーの創出をめざします。

#### ・重点的施策・事業

- ① チャレンジデーへの参加などによる市民スポーツ・運動機会の拡大
- ② 総合型地域スポーツクラブの活動拡充に向けた取り組みへの連携
- ③ 体育協会をはじめとする各種団体との連携強化
- ④ 各種スポーツイベントの充実と参加拡大
- ⑤ 各種スポーツ教室・オリンピック教室の開催
- ⑥ 合宿環境の充実
- ⑦ トップアスリートと市民との接点の拡大
- ⑧ ホストタウンとしてのスポーツ・文化交流の推進

### (4) 文化・芸術の振興

#### ・基本方針

市民生活に潤いを生み出す文化・芸術活動の推進に向けて、文化振興条例を踏まえ、市民の自発的な活動の支援や創作活動の活性化に努めるとともに、その魅力が日常的に感じられる風土づくりをめざします。

#### ・重点的施策・事業

- ① 市民の文化・芸術活動の推進
- ② 芸能・芸術鑑賞機会の提供
- ③ しべつアーティスト・イン・レジデンスの実施

- ④ 文化団体が行う事業への支援
- ⑤ 市民の舞台芸術活動の支援
- ⑥ 市民の読書・文芸活動の促進

#### (5) 教育・学習環境の整備

##### ・基本方針

教育活動の改善や充実に向けた取り組みを進め、地域全体で子どもの学びや成長を支える体制の強化を図り、地域と学校との連携・協働を推進します。

そのほか、学校で山積する課題の解決に向けた取り組みに加え、教育・学習活動のソフト・ハード両面での環境整備に努めます。

##### ・重点的施策・事業

- ① コミュニティ・スクールの推進と地域学校協働活動の展開
- ② 学校現場における働き方改革の推進
- ③ 学校適正配置計画の推進と学校施設・設備の充実
- ④ スポーツ施設の整備
- ⑤ 社会教育施設の整備
- ⑥ 青少年健全育成に向けた啓発活動の実施

## 4. 教育行政に関する教育行政評価委員の意見

### (1) はじめに…本報告書について

本報告書は、「令和元（平成31）年度土別市教育推進の重点」に掲げられた主要事業について、所管する各課・機関が、その目的や目標、達成状況、内容、課題及び見込まれる具体的な成果等を点検・評価した結果を示したものであり、これらに対して、5名の教育行政評価委員が客観的視点での意見を加味し、教育委員会会議を経て、議会に報告するとともに公表するものです。

各事業の最終的な評価については、総合的見地から5段階で示されていますが、この判定結果のみならず、それぞれの分野における課題や事業効果を踏まえ、さらなる検証と改善の不断の努力を期待するものです。あわせて、この点検・評価が、今後の施策・事業の発展的展開に活かされ、市民一人ひとりの「学び」や豊かな感性を持った子どもの育成をはじめとする土別市の教育推進に寄与することを期待します。

なお、評価の方法や示し方については、全国的に統一された基準もないため自治体によって様々であり、どのような手法が最適であるともいえない状況にはありますが、現在の本市における評価の基準と手法に関

しても、引続き明確で統一的な基準づくりに向けて検討・改善を望むものです。

## (2) 各分野における評価と今後の方向性について

学校教育では、小学校で令和2年度、中学校で令和3年度から適用される「新学習指導要領」に対応するため、ALT（外国語指導助手）の増員などの体制強化を図るとともに、独自研修の実施など教職員の指導力向上も進められてきました。また、地域の人材や様々な教育資源の活用を図るとともに、地域と連携した学校行事の工夫や体験活動等の充実にも取り組まれています。

ふるさと給食に関しては、児童・生徒にたいへん好評であり、愛郷心の醸成や食育の視点からさらなる充実を望みます。

特別な支援を必要とする児童生徒に対しては、22名の特別支援教育支援員が配置されていますが、心の教室相談員やスクールソーシャルワーカーなどを含め、さらにその充実を図ることが望ましいと考えます。

いじめに関わっては、本市の防止基本方針にもとづき、学校や家庭、関係機関の連携のもと、その根絶に向けた取組が必要です。

令和元年度においては、地域の保護者などから強い要望があった多寄中学校の土別中学校への統合が進められました。今後も児童生徒の減少が続くなかで、子どもたちにとってより良い教育環境のあり方について、保護者や地域との中長期的な視点に立った情報と意見の交換を進めていくことが必要です。

中学校の部活動については、教職員数の減少に加え専門的な指導を行うことのできる人材が不足している一方、教職員の働き方改革も推進しなければならない状況にあります。生徒が希望する部活動を続けられるよう、今後の部活動のあり方について引続き検討を進めることを望みます。

社会教育では、誰もが生きがいあふれる生活を送ることができるよう、多様な学習機会の提供に向けた環境づくりが進められてきたところであり、社会教育機関の連携強化や時代の変化に対応した事業の実施などに努めている状況が伺えます。特に、子どもたちに豊かな体験を提供する「土曜子ども文化村事業」では、社会教育課・中央公民館・博物館の連携のもと、事業の再編成が進められていました。また、青年層に対しては、今後の地域の担い手となる人材の育成と横のつながりを広げるための「土別まちづくり塾」が展開されました。今後は、本市における様々なイベントに積極的に参画することで、地域を担う人材の育成につながることを期待します。

青少年の健全育成や生活習慣の改善に向けては、価値観や人生観が多様化する今日にあっても、地域全体で子育てを進める環境を意図的に形成する必要があるなかで、学校・家庭・地域の連携のもと、早寝早起き朝ごはん運動の推進やチャレンジスクールなどに取り組まれてきました。

多くの社会教育・生涯学習関連事業については、それぞれ目的や対象が異なる場合もありますが、学校行事等にも配慮した日程の設定など一層の調整と工夫を望みます。また、単年度事業と複数年度継続事業については、各事業の性格も踏まえたさらなる工夫を望みます。

スポーツの振興では、市民皆スポーツと健康スポーツ都市の実現に向けた取り組みが進められてきました。また、スポーツ活動の底辺拡大と競技力向上に向けて、体育協会を中心として関係団体との連携強化が引き続き図られ、小中高生の活躍には目を見張るものがありました。このほか、「合宿の里ステップアッププラン」や「地方創生総合戦略」に基づき、スポーツ合宿の里づくりの推進が図られてきたところであり、さらなる深化に期待するものです。

しかしながら、これまで以上に「スポーツは楽しむもの」との意識拡大を図り、市民全体で「健康スポーツ都市」の実現をめざすことが必要と考えます。市民皆スポーツの啓発事業でもある「チャレンジデー」については、さらなる工夫に期待します。

また、合宿環境の充実に関わっては、今後の宿泊キャパシティの確保に懸念事項もあることから、多方面での検討が必要と考えます。

スポーツイベントにおいては、サマージャンプ大会やディスタンスチャレンジ大会などに多くの市民が応援に行くような体制づくりも必要と考えられるところであり、道内唯一のオリンピックデーランにはもっと多くの参加があっても不思議ではないなかで、メディアとのさらなる連携などにも期待するところです。また、ハーフマラソン大会についても、さらに幅広い層の参加拡大を期待します。

「スポーツ能力向上事業」については、子どもたちの運動やスポーツに対する意識を前向きなものにしていくとともに、教職員の指導力向上の面からも、引き続き実施していくことを強く望みます。

ホストタウンの推進においては、台湾を相手地域としてウエイトリフティングを軸とした交流体制の構築が進められているところであり、次年度以降においても、人的・文化的・経済的交流も含め、地域の活性化に寄与する取組が進められることを期待します。

文化・芸術の振興では、生涯学習情報センター・市民文化センター・サンライズホールの相互連携や機能充実を図るとともに、芸術・芸能活動の活性化に向けた取り組みや市民の創作・創造活動への支援、鑑賞機会の充実が図られてきたところであり、継続した取り組みを期待します。

また特に、サンライズホールについては、指定管理による管理運営が検討され、令和2年度からの導入に至ったなか、その効果に大きな期待を寄せるところです。

博物館では、本市開拓120年を記念した特別企画展において、60年以上前の映像などを中心とした展示を行い、本市の歩みを広く理解する取組が行われたことは大変意義深いものと捉えています。

コミュニティ・スクールについては、平成31年4月に市街地4校において学校運営協議会を設置し、市内すべての小中学校での推進体制が確立しました。今後も、学校運営の基本方針や地域との連携についての協議のほか、学校が抱える課題解決に向けた話し合いを行い、教育活動の改善や充実に向けた取組、さらには教職員の働き方改革にも寄与する取組の推進に期待するところです。

### (3) 総合評価

本市の教育委員会会議の運営においては、様々な情報を収集・共有することで、今日的課題に即応した多様な事案への対応や教育関係者等からの日頃の意見聴取などのもと、民意を反映させた教育行政が推進されています。






総合教育会議においては、従前にも増して、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図ることで、教育に関する予算の編成・執行や制度面での充実のほか、重要な案件の解決に尽力し、一層効果的な教育行政が推進されることに期待します。

評価対象は、「教育推進の重点」における全ての主要事業となっており、全体的に評価の統一性が必要である一方、評価項目に応じた基準設定など、その手法については、さらなる検討が必要と考えます。

今後においても、教育委員会の執行機関としての独立性に鑑み、民意の尊重のもと、積極的な事業展開に努めることにより、教育委員会が持つ役割・機能を十二分に発揮し、よりよい教育活動の実現に向けた努力を期待します。

令和2(2020)年 8月11日

士別市教育委員会教育行政評価委員

士別市校長会	士別南中学校校長	石橋克敏	
士別市社会教育委員の会議	議長	前田仁	
一般財団法人士別市体育協会	会長	神田英一	
士別市文化協会	会長	大崎庄一	
士別市PTA連合会	理事	鈴木春樹	

## 個別の事務の点検・評価一覧表

施策	主要事業		評価
1.学校教育	①	新学習指導要領への移行期間としての取り組みの推進	A
	②	授業改善チームによる指導や少人数指導の実施	A
	③	環境教育、消費者教育、防災教育、人権教育、非核平和教育の推進	B
	④	地域資源を活かし、ふるさとを愛する心を育くむ教育の実践	B
	⑤	みよし市や川内村との児童交流学習の実施	B
	⑥	外部講師の活用や、企業の協力による体験的な学びの機会の提供	A
	⑦	中学校部活動のあり方検討	B
	⑧	ふるさと給食の充実	A
	⑨	特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実	B
	⑩	いじめ・不登校・体罰の防止強化と対応・充実	A
	⑪	生徒個々に応じた東高ならではの教育の推進	B
2.社会教育	①	子ども会活動の充実	B
	②	子ども議会・子ども夢トークの開催	B
	③	土曜子ども文化村事業の充実	A
	④-1	子どもの学習習慣・生活習慣の定着促進(社会教育課)	B
	④-2	子どもの学習習慣・生活習慣の定着促進(中央公民館)	B
	⑤	土別まちづくり塾の充実	B
	⑥	九十九大学・大学院の魅力発信と大学開学50年記念事業の実施	B
	⑦-1	市民の主体的学習活動の促進(中央公民館)	B
	⑦-2	市民の主体的学習活動の促進(地域教育課)	A
	⑦-3	市民の主体的学習活動の促進(生涯学習情報センター)	B
	⑧	土別開拓120年関連記念事業の実施	A
⑨	地域の伝統文化や歴史を学び、後世に継承していく取り組みの推進	A	
⑩	道民カレッジとの連携推進	A	
⑪	社会教育関係職員の研修機会の充実	A	
3.スポーツの振興	①	チャレンジデーへの参加などによる市民スポーツ・運動機会の拡大	A
	②	総合型地域スポーツクラブの活動拡充に向けた取り組みへの連携	A
	③	体育協会をはじめとする各種団体との連携強化	A
	④	各種スポーツイベントの充実と参加拡大	A
	⑤	各種スポーツ教室・オリンピック教室の開催	A
	⑥	合宿環境の充実	A
	⑦	トップアスリートと市民との接点の拡大	A
	⑧	ホストタウンとしてのスポーツ・文化交流の推進	B



施策	主要事業		評価
	①-1	①-2	
4.文化・芸術の振興	①-1	市民の文化・芸術活動の推進(中央公民館)	B
	①-2	市民の文化・芸術活動の推進(上土別公民館)	A
	①-3	市民の文化・芸術活動の推進(多寄公民館)	A
	①-4	市民の文化・芸術活動の推進(温根別公民館)	A
	①-5	市民の文化・芸術活動の推進(朝日公民館)	A
	①-6	市民の文化・芸術活動の推進(図書館・生涯学習情報センター)	B
	②	芸能・芸術鑑賞機会の提供	A
	③	しべつアーティスト・イン・レジデンスの実施	B
	④-1	文化団体が行う事業への支援(社会教育課)	A
	④-2	文化団体が行う事業への支援(図書館)	B
	⑤	市民の舞台芸術活動の支援	A
	⑥	市民の読書・文芸活動の促進	A
5.教育・学習環境の整備	①	コミュニティ・スクールの推進と地域学校協働活動の展開	A
	②	学校現場における働き方改革の推進	B
	③	学校適正配置計画の推進と学校施設・設備の充実	B
	④	スポーツ施設の整備	B
	⑤	社会教育施設の整備	A
	⑥	青少年健全育成に向けた啓発活動の実施	B

施策	評価(上段:数 下段:%)					
	調書数	A	B	C	D	E
1.学校教育	11	5	6	0	0	0
	100	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0
2.社会教育	14	6	8	0	0	0
	100	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
3.スポーツの振興	8	7	1	0	0	0
	100	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0
4.文化・芸術の振興	12	10	2	0	0	0
	100	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
5.教育・学習環境の整備	6	2	4	0	0	0
	100	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
合計	51	30	21	0	0	0
	100	58.8	41.2	0.0	0.0	0.0

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	①	新学習指導要領への移行期間としての 取り組みの推進	0	0

事務事業の概要

【目的】 小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面实施される新学習指導要領に円滑かつ的確に対応するため、教育課程の編成や教育実践など、小中学校教職員の指導力向上と教育環境の充実を図る。

【目標】 新学習指導要領の実施に向けて、教職員が円滑に教育課程の編成や教育実践を進めることができ、子どもたちにとってより効果的な学習活動を推進するため、研修会の実施や教育環境の整備を行う。

【達成状況】 教職員からのアンケートに基づき、具体的・実践的な研修会を実施した。また、外国語指導助手（ALT）を1名増員し、3名体制とした。

【内容】 「主体的・対話的で深い学び」「小学校におけるプログラミング教育」「『特別の教科』道徳」をテーマとした研修会を実施した。

小学校外国語科・外国語活動の授業に対応するため、小学校を担当するALTを2名体制とし、ネイティブの英語に触れる機会をより多く創出した。

【評価を踏まえた課題】

教職員の二ーズを踏まえ、学校の教育活動に生かすことのできる研修機会の在り方を検討することが必要である。また、ALTと担任（授業者）が一層連携して授業を行うことのできる環境づくりが必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

新しい学習指導要領について、教職員自身が一層学びを深めることなどにより、教育課程の編成や教育実践の充実を図ることができる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	②	授業改善チームによる指導や少人数指導の実施	0	0

事務事業の概要

【目的】 国語や算数・数学などの基礎的な力を着実に育むため、複数の教員がチーム体制で取り組む授業改善や習熟度別の少人数指導などにより、授業力の向上を図る。

【目標】 豊富な経験と実践的な指導力を有する教員が指導することで、授業改善に対する意欲や学校全体の指導力の向上を図る。学習内容の習熟に応じた課題学習、補充的な学習活動を取り入れる。

【達成状況】 土別小、土別南小、剣淵小の3校の学力向上に向けて取組を推進した。指導方法工夫改善を図りながら、個に応じた指導の充実に努めた。

【内容】 ①教員の授業力向上②児童の基礎的・基本的な学習内容の定着③チャレンジテストの結果分析を活用した教育課程の改善

【評価を踏まえた課題】

授業改善推進については、授業の「導入・展開・終末」の時間配分や評価基準に基づき、達成出来ていない児童への手立てが必要である。少人数指導については実施単元、実施時間、学習集団の編成など年間を通じた実施計画を適切に立案することが必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

教員の授業力向上及び少人数指導により、児童生徒の基礎学力の確実な定着と主体的に学ぶ子どもの育成を促すことができる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	③	環境教育、消費者教育、防災教育、人権教育、非核平和教育の推進	0	0

事務事業の概要

【目的】 児童生徒が、社会で生き抜く力や他者を尊重しながら連携・協働する力、生命の尊さや予期せぬ危険から命を守る方法などを理解する力を養う。

【目標】 ①環境問題は、人類の生存と繁栄にとって、緊急な課題であることを理解する。②消費者として正しい知識や技術・心得を習得し、行動できる力を養う。③災害の危険を理解し、自らの安全を確保する行動や日常の備えができる能力を養う。④他者と互いに認め合い、一切の差別を許さない考え方を理解する。⑤平和の尊さについての認識を深め、自ら考える能力の育成を図る。

【達成状況】 消費者生活センターなどの外部講師や保護者・地域と連携し、各教科、総合的な学習や道徳の時間などを活用し、指導を行った。

【内容】 ①環境教育…節電・節水などの省エネ、牛乳パックのリサイクル、自然体験活動を実施した。②消費者教育…ネットトラブルを回避するため、情報通信を利用する際のルールやマナーについて、実例を交えた授業を実施した。③防災教育…特に上小と朝中では一日防災学校を実施し、地域と連携した避難所設営や非常食調理等を行った。④人権教育…児童・生徒の発達段階に合わせ、いじめは絶対に許されないことや人権の尊重についての授業を実施した。⑤非核平和教育…放射線に関する学習や原爆の史実を踏まえた授業を実施した。

【評価を踏まえた課題】 学校だけで完結できるものではなく、関係機関や家庭・地域と連携を深めながら、発展的、継続的な取組の工夫が必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

外部講師などによる多様な授業を受けることにより、社会の一員として問題意識をもち、自ら考える力の育成が図られる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	④	地域資源を活かし、ふるさとを愛する心を育む教育の実践	1,650	803

事務事業の概要

【目的】 自然体験・職場体験に外部講師として地域の教育力を取り入れ、多様な学びの機会を確保するとともに、地域や職業に対する理解を深め、農業学習の推進に向けた学習環境を整備し、地域特性に基づく教育の充実を図る。

【目標】 地域資源を活用し、豊富な学習機会を提供することにより、自らの課題を見つけ、学び、考えて問題を解決する力を育成する。

【達成状況】 学校内外の教育資源を積極的に活用し、指導の充実を図った。また、みのりの先生などの協力を得て、農業学習の充実を図った。

【内容】

- ① 武道や水泳、スキーなど、専門的指導が可能な外部人材による授業を実施した。
- ② 地域の自然や文化についての学習、企業見学、職場体験などを実施した。
- ③ 基幹産業である農業を学ぶための「農業学習」を実施した。

【評価を踏まえた課題】

地域の教育資源の一層の活用を図り、学習の充実を図るとともに、思考力・判断力・表現力等を育成する教育活動の一層の推進を図る必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

社会全体で教育に対する責任を共有することの認識が図られ、郷土への誇りや教育の質が一層高まることが期待できる。また、農業学習においては、みのりの先生など地域人材の協力や情報発信を強化していくことで、子どもだけでなく、教える側の住民も含め地域への結びつきを強め、改めて土別への愛着を認識することが期待できる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課		学校教育課・社会教育課		
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	⑤	みよし市や川内村との児童交流学習の実施	2,160	1,653

事務事業の概要

【目的】 友好都市である愛知県みよし市との小学生の相互交流や、絆協定を締結している福島県川内村の小学生の受入れを実施し、互いの特徴や良さを学ぶとともに、交流活動を通して多様な学びの機会を創出する。

【目標】 文化や風土の異なる子どもたちと交流し、普段とは異なる体験をすることで、子どもたちの視野の拡大や成長を促す。

【達成状況】 夏期休業期間中にみよし市の小学生 32 人を受入れ、1月上旬には本市4校から小学6年生 14 人を派遣した。川内村から10人を受入れた。

【内容】 みよし市からの受入れでは、ジャンプ台見学や農場訪問のほか、土別の小学生と「よっちょれ」、ジギスカンでの夕食会などによって交流を深めた。みよし市への派遣では、市内自由研修、南部小学校での交流授業、トヨタ工場の見学などで学習を深め、学習の成果を学校や地元新聞に発表した。

川内村小学生の受け入れでは、川内村からの要望にもとづき大規模校での交流事業を南小学校で実施した。

【評価を踏まえた課題】 事業の充実を図るため、派遣後は各学校で学習成果発表の機会を拡充するほか、交流の成果を高めていくことが求められる。また、川内村との交流についても、充実に向けた検討を進めていくことが必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

生活環境の違う子どもたちと交流することで、本市の子どもたちが、あらためて「ふるさと土別」の良さを実感する機会となる。みよし市への派遣は、事前・事後の学習を通じ、子どもたちに事業の目的を理解させることで、集団行動のルールやマナーを習得し、リーダーシップを醸成する事ができる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	⑥	外部講師の活用や、企業の協力による体験的な学びの機会の提供	130	130

事務事業の概要

【目的】 外部講師や誘致企業などに協力いただき、専門性が高く、本市ならではの体験的な学びの機会を提供する。

【目標】 教員だけでは難しい専門的な指導や体験的な学習を取り入れることで、授業内容を充実させるとともに、子どもたちのより「深い学び」につなげ、一層の能力の向上を図る。

【達成状況】 小学校では、誘致企業の協力により、現地を見学したり、体を動かして学習した。中学校では外部講師による総合的な学習の授業を行った。

【内容】 全ての小中学校で高平慎士氏によるスポーツ能力向上事業を実施したほか、小学生は社会科の授業でトヨタ自動車試験場見学（4年生・地域学習）、ダイハツ工業ものづくり体験教室（5年生・自動車産業）を実施した。中学生は総合的な学習の時間の授業で、外部講師による食育・性教育・カーリング指導・日向神代神楽指導などを実施した。また、土別小ではホクレン陸上部による走り方教室を、土別中ではスロヴァキアオペラによる学校公演も実施した。

【評価を踏まえた課題】 より幅広い分野での体験的な学びの機会づくりに向け、協力いただいている地域内事業所・団体や誘致企業・合宿入込チームとの連携強化を図るとともに、時数調整を含めた学校との調整の充実。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

簡単に見ることができない試験場の見学や、実際の作業を体験しながら友達と一緒に「ものづくり」を学ぶなど、専門的な指導や体験によって、子どもたちが学習したことを、より深く理解することができる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	⑦	中学校部活動のあり方検討	0	0

事務事業の概要

【目的】生徒や教員の減少のなかでも、希望する部活動の機会をできるだけ確保し、かつ質の高い活動を実現する。

【目標】平成30年度に制定した「土別市立中学校部活動拠点校方式試行要綱」に基づく部活動の存続及び部活動が持続可能で、最適に実施することができるよう、教職員の働き方改革の視点を含めたガイドラインを策定する。  
 【達成状況】平成30年度をもって廃部となった部活動について、要綱に基づく拠点校部活動を実施した。また、適切な部活動休養日や活動時間を設定した「土別市立学校の部活動に関するガイドライン」を策定した。

【内容】教職員の減少等の理由により廃部にせざるを得ない部活動を希望する生徒に対し、近隣の学校の部活動に参加できる「部活動拠点校方式」について、今年度廃部となった土別南中学校の2つの部（女子バレーボール部、男子バスケットボール部）について、土別中学校を拠点校として部活動を行った。  
 【評価を踏まえた課題】今後どの部活動が廃部となる可能性があるのかを、各学校・関係団体と連携しながら見極め、拠点校方式へとスムーズに移行できるよう検討する。さらに、試行から本格実施を見据えた制度確立が不可欠。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

自主的・自発的な参加のもとで、スポーツや文化活動等に親しみ、目標をもって取り組むことにより生徒の成長に資する充実した部活動が展開される。

また、ガイドラインの適切な運用により、顧問教諭や部員生徒双方が充実した環境下で活動することが期待できる。

評価

B



令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校給食センター	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	⑧	ふるさと給食の充実	5,329	4,980

事務事業の概要

【目的】 多くの地元産食材を活用した給食を提供することにより、地域の農業や食に対する理解を深めるほか、自然の恵みに対する感謝の心を養い、生産や流通などに関わる人々との交流のもと「地元産の食材の魅力」などを学びながら、「愛郷心」の醸成を図る。

【目標】 学期ごとに1回以上提供する。  
 【達成状況】 年8回実施（1学期1回、2学期6回、3学期1回）

【内容】

- ① 土別産米を使用したごはんを1回、土別産小麦を使用したパンを1回、サフォーク肉を使用した献立を1回提供した。
- ② 土別産の農産物を使用した副菜及び温食を提供した。
- ③ JA北ひびきから土別産の牛肉・米・玉ねぎ・じゃが芋・かぼちゃペーストの提供を受け、ふるさと給食を実施した。
- ④ 「合宿の里」としての理解を深める意味でも「アスリート給食」を2回提供した。
- ⑤ 朝日クラブ（大根寄付）、市橋和孝さんを招待した。

【評価を踏まえた課題】 今後も地元生産者と連携を図り、多くの地元食材を使用し子ども達に関心を持つ献立で提供を継続する必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

「自然の恵み」への感謝や「食の大切さ」を学ぶという「食育」とともに、「ふるさとへの愛着」という愛郷心の醸成が図られる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	⑨	特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実	24,787	23,020

事務事業の概要

【目的】 児童生徒個々の状況に応じた細やかな支援や教育的ニーズに応じた適切な教育を推進するため、特別支援教育支援員を配置し体制の充実を図る。生活や学習上の困難さの改善に向けて、RTI モデルを用いたひらがな音読指導を実施し、早い段階から支援を行う。

【目標】 特別支援教育支援員を配置し、教職員との連携のもとに児童生徒個々のニーズに即した支援体制の充実を図る。文字の読み書きに困難さが見られる児童生徒に対し、ICT 機器を活用し専門的対応の拡充を図る。

【達成状況】 市内小中学校6校に22名の特別支援教育支援員を配置した。音読指導を行い、支援が必要な児童にはiPadを活用した学習・支援を行った。

【内容】

① 特別支援教育支援員22人を配置

（土小6・南小7・上小1・糸小1・土中4・南中3）

② 土別小・土別南小の児童に、ひらがな音読指導を実施した。文字の読み書きに困難さが見られる児童に対し、iPadを活用した学習・支援を行った。

【評価を踏まえた課題】 特別支援学級の児童生徒以外に、通常学級にも何らかの支援が必要な児童生徒が多数在籍している状況にある。個々のニーズを把握し、児童生徒に対して必要な支援を行うことができるよう、勤務時間の増加や支援員の増員など、予算や人材の充実が望まれる。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

特別支援教育支援員を配置することで、校内の支援体制が拡充されるとともに、教職員の負担軽減が図られる。

評価

B

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	⑩	いじめ・不登校・体罰の防止強化と対応・充実	6,501	6,052

### 事務事業の概要

【目的】いじめや不登校に関しては、相談・支援体制を強化し、早期発見と解決を目指すとともに、児童生徒に寄り添った対応を図る。また、教職員に対し、体罰に対する正しい認識と感情のコントロールなどを身に付けさせる。

【目標】いじめの防止や早期発見に努めるとともに、個に応じた対応を進める。教職員による体罰を根絶する。

【達成状況】「心の教室相談員」を4名配置し、相談体制の確立を図った。また、定期的ないじめに関するアンケート調査や、個別のケース会議を開催し、関係機関と情報を交換して対応の充実を図った。適応指導教室は、各学校と連携し個々に対応した指導を行った。

【内容】スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの派遣を実施し相談体制の充実を図った。問題行動等への適切な指導を行い、連絡会やケース会議で情報交換を実施した。適応指導教室は、3名の指導体制を継続し、児童生徒の受入と各機関との連携を深めた。「体罰にかかる実態把握」調査をはじめとする実態把握や指導を実施した。

【評価を踏まえた課題】 学校と各機関における連携をさらに深める必要がある。適応指導教室においては通室する児童生徒の状況に応じた関係機関との連携が必要となる。

調査の結果、体罰事案はなかったが、引き続き防止に向けて、教職員へ指導組織的な相談・支援体制を充実する必要がある。

### 【見込まれる具体の成果】

### 【事務事業の必要性】

■継続   □見直し   □廃止

相談窓口の充実により、児童生徒の心のケアと問題解決に向けた取り組みが一層期待される。適応指導教室では、不登校等の児童生徒に寄り添った指導や支援を継続することにより、個々の課題解決と目標達成が期待できる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			東高等学校	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
1	⑪	東高校「生徒個々に応じた教育の充実」	0	0

事務事業の概要

【目的】 小規模校としての利点と恵まれた自然や人材など地域の教育環境・資源を活かし、「生徒が活躍できる学びの場を得て伸び伸びと学ぶことができるよう」個々の支援を大切にした教育を推進する。

【目標】 豊かな教育環境・資源を活かしたインターンシップなど実効性のあるプログラムにより、生徒一人ひとりが個々の才能を伸ばし、社会の担い手となる人材を育成する。

【達成状況】 生徒個々の良さを大切にし、コミュニケーション能力を育むことで、持てる力を最大限に発揮するという前向きさや自信をもつ意識醸成を進めた。

【内容】 小中学校で学んだ内容の確認のための学校設定科目「ベーシックスタディ」をはじめとする教育課程により、生徒個々が最大限に学力を向上できるよう、習熟度別学習及びTT（ティームティチング）を実施するとともに、青少年相談員の派遣により教育相談体制の充実に努めた。また、ボランティア活動や地域交流などの体験的活動を通じ、コミュニケーション能力や思いやりの心の育成に努めた。さらにインターンシップを2年生時に2回、3年生時に1回（計11日間）実施することで、社会で働く「生きる力」の養成に努めた。

【評価を踏まえた課題】 教育課程全体を通して、キャリア教育を充実させることにより、職業人・社会人として通用する力を一層育むことが必要。また、卒業後の就労支援の一層の充実を図ることが必要。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

インターンシップや個々に応じた教育活動を通じて、集団生活に必要な規範意識の定着や自己の意思決定能力向上等により、将来に向けた職業観及びコミュニケーション能力の育成が図られる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			中央公民館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	①	子ども会活動の充実	654	260

事務事業の概要

【目的】子ども会リーダー講習会や子ども会活動を通して、社会の一員として必要な知識・技能などを身につけ、心身の成長発達を促進し、子どもたちの健やかな成長に寄与する。

【目標】地域で生活する子どもたちを豊かな社会の担い手にふさわしい人材に育てるため、子ども会リーダー講習会や子ども会活動を通じた体験機会を創出する。

【達成状況】子ども会リーダー講習会や土子連行事など、子どもたちが集う機会を作り出すことはできているが、少子化や単位子ども会の活動の停滞などの影響があり、参加する子どもが減少している。

【内容】

- 第23回わんぱくフェスティバル 5/19 来場者約1,800人
- 子ども会リーダー養成野外研修会 8/5～6 24人参加
- 1市2町合同ジュニアリーダー研修会 6/15 21人参加
- 幸（ハッピー）＊サマーフェスティバル 9/22 2人参加

【評価を踏まえた課題】単位子ども会の活動をいかに活性化させていくかが重要な課題となっており、地域における育成者と子どもとの関わりの必要性について、土子連と連携しながら啓発していく必要がある。また、子ども会リーダー制度の見直しが必要と考える。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

各種行事を通して、社会の一員として必要な知識・技能・態度などを身につけさせるとともに、子どもたちの仲間作りの場を設け、豊かな心を持つ子どもたちを育てる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課		中央公民館		
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	②	子ども議会・子ども夢トークの開催	227	207

事務事業の概要

【目的】 子ども達の夢や思いを意見・提言として発表し、わがまちへの興味・関心を育み、まちづくりへの参画意識を高める。

【目標】 自分たちの地域を観察し問題点を考え、自分のアイデアや意見・要望などを発表する。

【達成状況】

- ・子ども議会 実体験からの疑問や不安などをもとに改善策を考え、議員として理事者へ 提言することで市政への興味や関心が高まった。
- ・こども夢トーク それぞれの地域の特色や学校生活に目を向け、よりよい未来となるようなアイデアを発表し、市長、教育長と意見交換を行った。

【内容】

- ・子ども議会 R1年度で8回目の開催。市内中学校5校の子ども議員8人が10月9日、市議会本会議場において提言・要望を発表し、市長、副市長及び教育長が答弁した。
- ・こども夢トーク ①11月20日 糸魚小学校 全校生徒11名参加  
②11月25日 上土別中学校 5年生5名、6年生8名参加  
③11月27日 土別南小学校 6年生 65名参加

【評価を踏まえた課題】 子ども達の意見や要望が市政に取り入れられることで、まちづくりの興味や関心が育まれる。今後も関係部局や学校の一層の理解と協力体制を継続していく必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

未来を担う子どもたちのアイデアや意見を市長に発表することで、市政やまちづくりへの参画意識を高めることに寄与することができる。

評価

B

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			社会教育課・中央公民館・博物館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	③	土曜子ども文化村事業の充実	385	213

### 事務事業の概要

【目的】 地域の人材を講師に、体験する機会が少なくなった文化活動や職業観を育む職業体験などを通じて、子どもたちに豊かな体験を提供する。

【目標】 子どもたちに豊かで有意義な土曜日を提供するとともに、地域で子どもたちを育む活動を助長するため、3館が各6回の体験活動を行う。

【達成状況】 地域住民の指導による様々な文化体験や職業体験などを行い、年間18回延べ262人に豊かな体験の機会を提供することができた。

【内容】 企業人や文化団体などの地域人材を講師として招き、子どもを対象とした豊かな体験活動を実施した。なお、令和元年度は体験内容にあわせた3館に再編成した。

- ・職業体験館 警察官、建設業、看護師などの職業体験 6回延べ 89人
  - ・文化体験館 油絵描画、吹奏楽演奏などの文化体験 6回延べ 71人
  - ・ふるさと自然歴史体験館 川の生き物探し、遺跡見学などの  
自然体験や歴史学習 6回延べ 102人
- 計 18回延べ 262人

【評価を踏まえた課題】 様々な体験を効果的に子どもたちに提供するため、新たな地域人材の発掘に努めるとともに、多くの子どもたちに多様な体験を提供するため、事業の実施回数や取り組む内容は引き続き検討が必要。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

地域人材の指導による様々な体験によって、子どもに有意義な活動が提供できている事に加え、地域が子どもを育む活動を助長することができる。

評 価
A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			社会教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	④-1	子どもの学習習慣・生活習慣の定着促進	807	492

事務事業の概要

【目的】児童の学力向上に資するため、望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図る。

【目標】児童の望ましい生活習慣の改善に資する「チャレンジスクール」及び「チャレンジ寺子屋」の実施と保護者への事業趣旨の理解促進。

【達成状況】望ましい生活習慣の定着・体力向上のきっかけを与えることを目的とした「チャレンジスクール」事業と学習習慣の定着を目的とした「チャレンジ寺子屋」事業を実施した。

【内容】望ましい学習習慣と生活習慣の定着を主たる目的として、子ども会育成者、大学生ボランティア、土別翔雲高校生徒、学校教職員など多くの方が関わり、学習以外にもスポーツ活動など内容の充実を図った。

チャレンジスクール 3泊4日 第1回23人、第2回11人、計34人  
(保護者説明会 30名参加)

チャレンジ寺子屋 夏 3日間 延べ120人、冬 4日間 延べ121名

【評価を踏まえた課題】事業内容は参加人数や実施時期、会場などを鑑みて、毎年度検討する必要がある。また、児童が事業終了後でも家庭で継続することが重要であることから、保護者に本事業の趣旨の理解を深める必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

保護者の関心も高く、家庭教育への影響も大きい。また、事業には多くの市民の参画があることから、地域が子どもを育てる気運を高めている。

評価

B



令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課		中央公民館		
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	④-2	子どもの学習習慣・生活習慣の定着促進（家庭教育推進事業）	120	90

事務事業の概要

【目的】子どもの望ましい生活習慣の定着を図り、子どもたちの健全育成に資する。

【目標】学校等（幼稚園・保育所含む）・家庭・地域と連携し、子どもの望ましい生活習慣づくりを推進する。

【達成状況】講演会や体験事業、生活リズムチェックシートの配布等、様々な事業を実施し、望ましい生活習慣の定着推進と周知啓発が図られた。

【内容】

- 「生活リズムチェックシート及びスタンプシート」の配布
- 夢民家族「親子で折紙体験」 9/19 実施 参加者 24 人
- 講演会「子どもの偏食について」 9/26 実施 参加者 12 人

【評価を踏まえた課題】

これまで子どもや保護者を対象とした講座や講演会、普及啓発を実施してきたが、他の部署で同様な講座、講演会が開催されているため、参加者が減少傾向である。

今後は、推進員や関連部署と連携し、各家庭へ家庭教育に関する情報提供をしていく必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

継続 見直し 廃止

子どもにとって望ましい生活習慣を定着させることで、健康的な生活が守られ、子どもの健やかな成長に繋がる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			中央公民館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑤	士別まちづくり塾の充実	670	428

事務事業の概要

【目的】 「士別市まちづくり基本条例」の基本原則である「市民自治」の推進に向けて、本市の将来を担う人財の育成と各分野で活躍する若者の交流・連携を図り、その英知とエネルギーを本市のまちづくりに生かすための学習活動の場とする。

【目標】 士別市の風土やまちづくりの歴史の学びや、有効的な実践事例の学びをとおして、次代のまちづくりを担う人財を育成する。

また、青年女性層の積極的な交流機会を創出し、塾生相互の仲間づくりや連携強化を図る。

【達成状況】 第6期では、塾生 13 名（男性8名、女性5名）が8回の学習会及び調査・研究を通して、塾生が知らない士別の魅力を発見するための「しべつツアー（実践）」の企画を行った。※第9回以降は、感染症予防のため延期とした。

- 【内容】 ①学 習（士別市の風土やまちづくりの歴史についての講義）  
 ②事例研究（若者のまちづくり参加について、道内視察研修）  
 ③協 議（実践事業の企画）

【評価を踏まえた課題】

青年層が実施するまちづくり活動にICTを活用した取組が増加しており、幅広い地域人財との交流が可能となることから、本市でも講義・実践に取り入れていくことが必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

学習及び調査・研究、実践を通して、次代を担う人財を育成するとともに、塾生相互の積極的な交流機会を創出することで、若者の連携を強化する。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課		中央公民館		
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑥	九十九大学・大学院の魅力発信と大学開学50年記念事業の実施	1,656	1,404

事務事業の概要

【目的】高齢者の生涯学習活動として、九十九大学及び大学院を開設し、時代の変化に即応できる知識と技能を身に付け、豊かな経験やその能力を家庭や社会に役立たせ、福祉の向上に資する人材の養成を図る。

【目標】生きがいと魅力を感じる学習と交流の場を提供し、入学希望者を増やすため、大学の魅力を発信する。また、開学50年を記念した式典の開催。  
 【達成状況】様々な講義や実践、自治会活動などで知識を高め、学生同士の交流の活性化を図った。毎月、地元新聞にて大学の様子を掲載し市民に情報を発信した。新入生募集時に大学の魅力を伝えるため、スライドショーを作成し、啓発活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施出来なかった。令和元年度で開学50年を迎えたため記念式典を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期した。

【内容】大学生28人、大学院生38人 大学・大学院合同学習会を「年間7日」、大学一般学習会を「年間9日」大学院専門学習会を「年間12日」、さらにシルバーマスターとゴールドマスターの2コースに分けた学習を3回実施した。  
 【評価を踏まえた課題】大学は生活・知識・文化の学習、大学院はさらに体験学習や異世代交流・施設見学などを行うことで学習体系を差別化してきたが、近年、入学・進学希望者が減少しており、大学自体のあり方について検討すべき時期にきている。在校生の意見も聴取した上で、枠組みにとらわれず、高齢者が参加しやすい新たな形式の生涯学習の場を提供することが必要である。

【見込まれる具体の成果】  
 【事務事業の必要性】  
継続 見直し 廃止  
 高齢者の知識教養の向上と人材交流の場として、大きな役割を担っている。

評価
B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			中央公民館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑦-1	市民の主体的学習活動の促進	410	289

事務事業の概要

【目的】市民や各種団体等が自主企画する学習事業への支援、さらには市民の生涯学習の場を提供し、一層の学習意欲の向上と相互の交流拡大を図る。

【目標】市民の多様化する学習活動に対応するため、市内各種団体や自治会、老人クラブ等が自主的に企画・運営・実施する学習事業に対して支援を行う。  
 【達成状況】開催後のアンケートによれば、支援内容（助成金額や支援回数）についても、概ね十分である回答があり、生涯学習に対する意欲をより向上させることができていると把握している。

【内容】①うるおい楽習塾 7自治会 延べ10回  
 9老人クラブ 延べ14回  
 ②マイプラン・マイスタディ 9団体 7事業実施  
 【評価を踏まえた課題】生涯学習の場の拡大に向けて、市ホームページや広報、さらにはフェイスブックや新聞記事での掲載など、多様な媒体を活用してPRを継続していく必要がある。  
 また、「うるおい楽習塾」と「マイプラン・マイスタディ（市民自主企画支援事業）」の2事業は、市民の生涯学習に対する支援事業という面で類似する点があることから、今後2事業を検証し制度の見直しが必要である。

【見込まれる具体の成果】 【事務事業の必要性】  
継続 見直し 廃止  
 市民の自主的な企画に対する学習活動への支援を行うことにより、生涯学習としての市民の学習意欲がより向上するとともに、自主企画の学習を通して、知識や教養の向上と市民相互の交流が図られる。

評価
B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			地域教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑦-2	市民の主体的学習活動に対する支援 (あさひサンライズホール)	0	0

事務事業の概要

【目的】 市民を構成員とする団体又はサークル及び個人が自主的に企画した学習活動について支援を行い、活動の活性化を図る。

【目標】 市民の生涯学習に対して多くの機会充実を図り、さらなる学習意欲の向上を醸成させる。

【達成状況】 教養・音楽・文化活動・健康など多様な分野において、自主的な学習活動が行われ、市民の生涯学習に対する学習意欲をより向上させることができた。

【内容】 生涯学習関連団体 32 団体 1,756 名(登録団体ベース)

【評価を踏まえた課題】

サークル自体の高齢化が進み、維持できなくなった団体やサークル自体を解散する団体が出始めており、生涯学習推進の観点から、サークルへの若い世代の参画や新たなサークルの出現を促す支援活動が必要と見込まれる。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

個人または少数での団体化、または活動内容の変更等による組織改編など、サークル活動の母体となる団体の性格が変化しており、これまでよりも幅広く、柔軟な対応と支援が求められる中で、より自主的な活動の促進が図られる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			生涯学習情報センター	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑦-3	市民の主体的学習活動の促進	0	0

事務事業の概要

【目的】市民の主体的な学習活動の場として、広く利用を図ることにより、市民相互の生涯学習活動を促進しうる環境を提供する。

【目標】主体的な生涯学習活動の拠点施設や、学習の場を提供するとともに、各種サークル活動に参加している利用者の交流の場として利用促進を図る。

【達成状況】サークル活動での利用に際して、利用ごとの適切な貸室案内や利用者が集う場所としての環境整備に努めた。

【内容】各種サークル活動やイベント開催時において、利用形態や趣旨に配慮し、準備・手法等、打ち合わせを密にし充実にもめた。市民や利用者の交流の場として広く利用されている市民ギャラリーについて、利用者の動向や直接希望に対応したテーブルの配置等、利用状況に応じて対応した。

【評価を踏まえた課題】サークル活動はもとより、大型イベント（ワークショップ形式）での利用など、多様な活動と広い世代に利用が浸透してきていると考えられる。今後も、施設の有効利用を目指し、環境整備を進める。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

今後も市民の主体的な生涯学習活動の拠点施設として利用促進を進め、広く市民が利用することにより、生涯学習活動の推進と市民の交流の活性化が図られる。

評価

B

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			博物館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑧	土別開拓120年関連記念事業の実施	856	782

### 事務事業の概要

【目的】 明治から令和までの土別の歴史を紹介し、市民に郷土の歴史に対する理解を深め、郷土の魅力の再認識や興味・関心を深めてもらうことを目的とした。

【目標】 博物館に収蔵しており、日頃は紹介できていないコレクションや昔の土別を撮影した映像や写真などの資料を展示し、多くの市民に本市の歩みを広く理解してもらう。

【達成状況】 多くの市民に来館いただき、資料を閲覧してもらうことができた。期間中は関連事業含め 1,261 名の方の利用があった。なかには、「長年住んでいて知らなかったことを知ることができた」という声もあり、好評価を得ることができた。

【内容】 収蔵しているコレクションや映像資料、朝日のまなべーるの資料など多くの資料を展示した。また視覚的に楽しめるよう、解説は少なくし、実物のコレクションを多く展示した。

【評価を踏まえた課題】 展示資料等について、収蔵状況などから、どうしても土別市街地の歴史に偏ってしまう傾向があり、今後は市街地以外の歴史の内容なども充実させるべく、資料の収集や調査・研究を進める必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

市民の方々が郷土の歴史について興味・関心を深め、気づいていなかった郷土の魅力の再発見につなげられる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			社会教育課・博物館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑨	地域の伝統文化や歴史を学び、後世に継承していく取り組みの推進	154	68

事務事業の概要

【目的】有形・無形文化財の保護はもとより、地域に伝わる伝統文化の継承に努めることにより、郷土の歴史を学び、後世に伝えていくとともに、ふるさと意識の高揚と郷土愛を培う。

【目標】市指定文化財の「屯田兵屋」「祖神の松」「上士別遺跡」「瑞穂獅子舞」の保護整備をすすめるとともに、市内に存在する史跡を活用した事業の実施により文化財保護意識の啓発と無形文化財の継承に努める。

【達成状況】市指定文化財の巡視、屯田兵屋の清掃や史跡周辺の草刈りの環境整備、子ども文化村での遺跡見学や小中学校での日向神代神楽出前講座の実施。

【内容】有形文化財の定期的な巡視を行うとともに、豪雪や暴風などがあつた際には速やかに現地確認を行っている。春先には郷土研究会、文化財審議委員の協力による屯田兵屋の清掃を行った。

無形文化財「日向神代神楽」は、学芸員が愛好会の協力を得て、学校授業での出前講座の実施。愛好会が地域の祭事で舞を披露しているほか、多寄中学校の閉校式では生徒が神楽を披露するなど、地域に伝わる伝統芸能として継承されている。

【評価を踏まえた課題】市内に有する文化財は地域の学習資源として、引き続き保護対策と情報提供に努める。特に無形文化財については、地域の伝統芸能として引き継がれるよう、保存会や愛好会と情報共有に努める必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

市内の文化財の保護・整備に努め、郷土の歴史を学ぶ学習機会の充実を図り、郷土愛を育み、郷土に対する理解や関心が深い人材を育成することができる。

評価

A



## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			社会教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑩	道民カレッジとの連携推進	0	0

### 事務事業の概要

【目的】北海道教育委員会が主催する「道民カレッジ」と連携し、士別市で行われる講座等を「連携講座」として開催し、自らの意思によって学ぶ機会を選択することにより生涯学習を推進する。

【目標】様々な学習機会を積極的に道民カレッジの連携講座に登録を行い、連携講座数を年間50件以上を目標として、市民の学習意欲の向上を図る。  
 【達成状況】令和元年度には公民館講座など46件の連携講座を実施した。市民の学習意識は高く、様々なジャンルの学習機会も提供することができる。

【内容】「道民カレッジ」は「だれでも、いつでも」入学でき、自分で学びたい講座を選び、自分を高めるための大学で、道の主催講座と連携講座の取得単位数により「学士」「修士」「博士」等の称号が授与される。士別市では社会教育施設の講座を中心として多くの事業を連携講座としている。  
 ・主な連携講座 公民館講座、博物館講座、九十九大学活動、各種講演会など  
 【評価を踏まえた課題】道民カレッジは全道の市町村の事業を連携講座としていることもあり市外からの受講もある。幅広い内容の学習機会を提供するため、民間の講座についても連携を進めていく必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

学習内容が入門から専門的な内容まで、幅広く実施されており、学習者の希望に合わせた選択が可能なことや各々のペースで学習をすることができるため、称号取得などの目標設定により学習意欲の高揚が期待できる。また、学習内容も環境や健康など多種にわたるため、他部課との連携も図ることができる。

評価
A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			社会教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
2	⑪	社会教育関係職員の研修機会の充実	141	114

事務事業の概要

【目的】社会教育関係課・各機関の職員が資質の向上を図ることにより、本市の社会教育の推進を図り、研修の成果を社会教育の実践に役立てる。

【目標】本市の社会教育の推進のため、社会教育関係各課・機関の職員が市民の学習活動を支援する方策について、様々な機会を通じて研修活動に参加することで、企画力の向上を図る。

【達成状況】社会教育事業の効果的な推進のため、各種研修会に社会教育関係職員の参加を促し、資質向上を図ることができた。また事業の効果的実施や日程重複の回避を図るために子どもの参加事業カレンダーを作成し、情報共有するとともに学校への情報提供を行った。

【内容】社会教育関係職員が教育関係職員としての資質向上を図るとともに、効果的な事業計画を行うことを目的とした社会教育関係機関の情報共有と会議や研修会の開催。

学校運営協議会委員研修会（11/28） 8名出席

子どもの参加事業カレンダーの発行

北海道社会教育セミナー等（全道、上川管内）研修の参加奨励

【評価を踏まえた課題】社会教育を推進する社会教育関係職員としての資質向上を図るためにも、継続的な研修が必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

研修会や会議を通じて、多くの職員が学ぶことにより、各事業がどのように市民の学習に結び付き、限られた職員と予算の中で効果的な事業を実施する手法を学ぶことができる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	①	チャレンジデーへの参加などによる市民スポーツ・運動機会の拡大	632	632

事務事業の概要

【目的】 チャレンジデーの実施を通して、「市民憲章」や「健康・スポーツ都市宣言」を踏まえ、市民一人ひとりがスポーツの持つ意義や効果を理解し、生涯にわたって健康で心豊かに過ごすことのできる「まち」づくりに寄与する。

【目標】 スポーツ習慣化、健康寿命の延伸や医療費の削減、地域の活性化、対戦自治体との交流など

【達成状況】 参加率（参加人数）44.9%（8,521人）  
目標の参加率45%（8,535人）に届かず

【内容】 ラジオ体操、チャレンジデーウォーキング、ふまねっと体験会、みんなでジャンプNo.1決定戦、ボッチャ体験会のほか、市内事業所や団体の協力による運動の実践、スポーツ施設の無料開放など

【評価を踏まえた課題】 チャレンジデーの取り組みについては、周知徹底の不足が否めないところであり、運動している方の報告方法の工夫なども必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

チャレンジデーを通じた「市民皆スポーツ」の創出や、チャレンジデーをきっかけとした運動機会の提供の拡充が図られる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	②	総合型地域スポーツクラブの活動拡充に向けた取り組みへの連携	3,005	3,005

事務事業の概要

【目的】生涯スポーツ振興の中心的な役割を担う総合型地域スポーツクラブの活動の活性化を図る。

【目標】継続的な各種事業の展開。

【達成状況】継続した事業を通じ自らの成長を感じつつ、さらなる研鑽により意識の向上に努める事業を展開した。

特に、道内でも先進的に進めているメンタルトレーニングによって中・高校生の競技力向上が成果として表れ、全国で活躍する選手の輩出につながっている。

【内容】4つのスポーツクラブが地元根ざした独自の身近なスポーツ教室やスポーツ大会を開催。また、学校運動部セミナーとして「コンディショニングセミナー」や「メンタルセミナー」など継続した事業を実施した。

【評価を踏まえた課題】各スポーツクラブの活動は、多くの市民の健康・体づくりに対する意識の向上が図られてきている。今後は、さらなる会員の拡大とスポーツクラブの活性化に努める。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

スポーツを通して地域コミュニティの醸成や身近な生涯スポーツの振興などが図られる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課		合宿の里・スポーツ推進課		
		事業費（千円）		
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	③	体育協会をはじめとする各種団体との連携強化	21,441	21,441

事務事業の概要

【目的】

市民及び競技スポーツの中核的な役割を担う一般財団法人士別市体育協会などの運営を支援し、さらなる本市のスポーツ振興を図る。

【目標】

士別市体育協会の事務局体制強化などの運営補助をすることにより、体育協会の基盤及び組織力の強化を推進するとともに、体育協会との連携による市民スポーツの振興と健康体力づくりを進める。

【達成状況】

体育協会を通じて各加盟団体と連携し、各種事業でスポーツの普及と競技力の向上を図るとともに、スポーツによる市民の健康増進と体力づくりが図られた

【内容】

総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団育成事業の推進、「健康・体力づくりサポート事業」の一環とした、市内企業とのコラボ事業の実施

【評価を踏まえた課題】

連携体制の構築と市民の意識づけをさらに進める必要がある。

【見込まれる具体の成果】

各種事業の展開により市民スポーツの振興と健康体力づくりが図られる。

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

評価

A

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	④	各種スポーツイベントの充実と参加拡大	15,281	15,208

### 事務事業の概要

【目的】 合宿の聖地としてイベントの進化を図り、参加者にとってより有意義なものとするとともに、交流人口等の拡大を図る。

【目標】 ハーフマラソン大会においては、目標 2000 人。

【達成状況】 ハーフマラソン 1,704 人 デイスタスチャレンジ 263 人

リビレッジラン 2,003 人 全日本マラソン 77 人 マラソンバインド 114 人

ジュニア&レディースマラソン 101 人 合宿の里土別マラソン 47 人

ルディックスキ 397 人

【内容】 ハーフマラソン大会では、参加賞の 500 円分の商品券をサフォークフェスティバル出店ブースだけでなく市内登録店舗でも使用できるようにし市内経済の活性化を図った。オリンピックデーランでは、合宿で来ていた女子ウエイトリフティングナショナルチームも参加しイベントを盛り上げた。デイスタスチャレンジでは、過去最多の参加者数のなか観戦しやすい環境づくりに努めた。サマージャンプ大会については、国内シーズン開幕戦として開催し、サマーコンバインド、ジュニア&レディース大会、朝日ノルディックスキー大会については、全国のジュニア選手が多数参加した。

【評価を踏まえた課題】 他の地域でも、同種同様の大会が新たに開催されたり、競技人口も微減傾向であることなどから、ハーフマラソン大会においては前年を下回る結果となった。関係する団体等との連携を深めながら、さらに魅力ある大会やイベントとなるよう内容の充実に努める。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

交流人口による経済の活性化や本市の知名度アップ。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	⑤	各種スポーツ教室・オリンピック教室の開催	1,372	1,361

事務事業の概要

【目的】 合宿の聖地として、本市に訪れる国内のトップ選手とのふれあい等から、スポーツの楽しさ、面白さを感じてもらいスポーツ（運動）に対する意識の向上をめざす。

【目標】 市民一人ひとりが生涯にわたり、豊かなスポーツライフを親しむことができる体制づくりのために、児童生徒や各競技団体等を対象にした教室を開催し、スポーツの普及や各種競技における競技力の向上を図る。

【達成状況】 オリンピック教室、スポーツ教室、スポーツ能力向上事業、ファイターズキッズサマーキャンプの実施。

【内容】 合宿選手による陸上教室、オリンピックデーランではオリンピックによるスポーツ教室を実施した。また各小中学校において運動会前にオリンピックを講師に迎えたスポーツ能力向上事業を実施した。ファイターズキャンプには地元からも小学生が参加した。

【評価を踏まえた課題】 スポーツ教室等で多くの市民が参加できるような体制づくり。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

各種スポーツの競技力向上や指導者の養成が図られるとともに、市民のスポーツライフに親しむ機会が提供できる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	⑥	合宿環境の充実	11,650	11,397

事務事業の概要

【目的】 合宿の聖地をめざして「スポーツ合宿の里」をさらに発展させ、経済効果はもとより、多方面での効果の拡大を図り、「健康・スポーツ宣言都市」の推進を図る。

【目標】 合宿の里推進協議会との連携により道内外の合宿団体へ積極的な合宿誘致を展開することで、「スポーツ合宿の里土別」としてのまちづくりの推進により、経済の活性化と交流人口の拡大を図る。

【達成状況】 2020 東京や 2022 北京五輪を目指す、陸上競技やウエイトリフティングをはじめ、スキージャンプなど国内トップの選手を合宿で受け入れる。

【内容】 陸上競技場写真判定機の更新、東京オリンピックウエイトリフティング競技に使用する公式バーベル（男女各1本）の購入、朝日地域交流センターにおける扇風機購入などの設備等の充実、旅館業組合との連携強化に向けた協議、市民との歓迎交流会の開催など。

【評価を踏まえた課題】 宿泊施設について、夏期の合宿入り込みのピーク時や大会開催時には、本市の宿泊可能数を上回る場合もあり、宿泊収容能力の拡充が求められる。市内旅館業経営者も高齢化しており担い手づくりも課題。更なる歓迎体制の充実や新たな合宿チームの招致等も課題。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

「スポーツ合宿の里土別」のまちづくりを推進することにより、「合宿の里土別」を道内外へPRし経済の活性化と交流人口の拡大が図られる。

評価

A



令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	⑦	トップアスリートと市民との接点の拡大	300	300

事務事業の概要

【目的】「スポーツ合宿の里づくり」によるまちの活性化及び、合宿者と市民との交流を図るなど、市民総意の合宿の里づくりをめざす。

【目標】 合宿者への歓迎の意を表す「心温まるおもてなし」の取り組みを市民あげて実施する。また、合宿を通して各種スポーツ教室の開催など市民との交流を一層進め、地元ジュニア選手の発掘・育成をめざす。

【達成状況】 合宿の里土別推進協議会と連携し、市民交流の場として親睦交流会を実施して歓迎体制の充実を図った。また、子どもたちを中心としたスポーツ教室を実施した。

【内容】 合宿選手と市民との親睦交流会の開催をはじめ、市民を交えた大会激励活動。また、スポーツ教室やオリンピック教室によるトップアスリートからの直接指導。

【評価を踏まえた課題】 合宿選手やオリンピックなどとの「ふれあいの場」や「スポーツ教室」のさらなる拡充。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

「スポーツ合宿の里」のまちづくりを推進することにより「合宿の里土別」を道内外へPRし、経済の活性化や交流人口の拡大、さらには、スポーツへの意識の向上が図られる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
3	⑧	ホストタウンとしてのスポーツ・文化交流の推進	5,899	1,226

事務事業の概要

【目的】 台湾を相手国とする「ホストタウン」として、スポーツをはじめとした、様々な分野での相互交流を進め、2020 東京オリパラ成功に向けた機運醸成及び本市の活性化に資する。

【目標】 代表選手などの合宿招致に努めるとともに、文化・教育交流の継続・発展や教育旅行招致などの展開を含め、オリンピックレガシーの創出をめざす。

【達成状況】 ・台湾関係者への合宿招致活動

- ・土別東高校見学旅行訪台、台中市立大甲工業高級中学招聘交流
- ・北海道訪日教育旅行促進協議会への参画（台湾教育旅行関係者招請等）
- ・GAP 食材を使ったおもてなしコンテスト参加

【内容】 台湾オリンピック委員会への合宿招致活動（4/28～30）、台湾ウエイトリフティング協会関係者への合宿招致活動（7/6）、土別東高校訪台（11/11～15）、台湾教育旅行関係者6名招請（10/29～11/2）、美幌高校と連携してGAP 食材を使ったおもてなしコンテスト参加（10月上旬～1月上旬）

【評価を踏まえた課題】

- ・台湾代表チームの合宿招致に向けた、継続的な取り組みが必要
- ・訪日教育旅行の招致に向けて、更なる取り組みが必要

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

交流人口の増加による市内の活性化のほか、東京オリパラに向けた機運醸成を図るなどの取り組みにより、市民スポーツの振興など、健康スポーツ都市の実現に寄与することが期待される。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			中央公民館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	①-1	市民の文化・芸術活動の推進 （市民総合文化祭）	415	386

事務事業の概要

【目的】地域文化の振興に向けて、多様な分野における創作発表の場と鑑賞機会の提供を図り、かつ市民参画型の実行委員会形式をとることにより、地域密着で文化の推進を図る。

【目標】日常の自主的な文化活動を通して、会員相互の親睦や日頃の成果を発揮できる場を市民とともに構築する。

【達成状況】文化団体や個人の参加による「市民総合文化祭実行委員会」を設立し、市民が一体となった総合文化祭を開催することができた。

【内容】①作品展示 10/28～11/4 出展者数 総計 41 団体 6 個人  
参観者 約 3,000 人

- ・一般展示 作品展示数：1,012 点
- ・小中学生、児童館等作品展示数：253 点

②芸能発表会 11/3 出演 31 団体 参観者 約 500 人

【評価を踏まえた課題】 作品の出展や芸能発表会への出演を通して市民の芸術の発表の場となっているが、展示作品や芸能発表内容がマンネリ化となっているため、新規の作品及び出演者、特に小中学生等の若い世代の作品や芸能発表へ参加することが今後の課題である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

文化団体・サークルとの協議を行い、公民館として行うことのできる支援策を模索し、対応策を具現化して各団体の活性化を図ることができる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			上士別公民館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	①-2	市民の文化・芸術活動の推進 （上士別町民文化祭）	123	123

事務事業の概要

【目的】 文化活動の総合的な発表の機会を通して、町民の文化活動に対する意識を高め、地域文化の向上を図る。

【目標】 公民館講座や町民の文化活動及びサークル活動の成果の発表と町民同士の交流を深める場を構築する。

【達成状況】 掘り起こしとして訪問依頼により作品を出展いただいた。入場参加拡大として小中学校にも入場いただいた。また、昨年に引き続き上士別在住の講師による体験コーナーとしてカラーコーンアクセサリ作りを実施。芸能発表では地元小・中・高生にも出演いただき、総体的に目標達成できた。

【内容】

- ① 展示部門(11/1) 出展者 31 件 作品数 449 点 入場者約 146 名
- ② 芸能部門(11/3) 出演者 11 団体 123 名 入場者約 200 名

【評価を踏まえた課題】

地域内の文化団体やサークルなどの活動は継続しているが、一部活動の規模縮小や休止がみられる。

高齢化や地域人口が減少する中ではあるが、文化祭への作品の出展や芸能発表を通じた文化活動の活性化を図るため、引き続き作品出展者・出演者の掘り起こしや、当日の入場の参加呼びかけなど、文化活動への働きかけが必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

文化祭による発表を通じ、地域の文化団体やサークルなどの活動のやりがいを感じてもらうことにより地域文化の向上が見込まれる。

評価

A

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			多寄公民館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	①-3	市民の文化・芸術活動の推進 （多寄町民文化祭）	50	36

### 事務事業の概要

【目的】 文化活動の総合的な発表の機会を通して、町民の文化活動に対する意識を高め、地域文化の向上を図る。

【目標】 町民の日頃の文化・芸術にかかる学習成果の発表の場及び鑑賞の機会を提供する。

【達成状況】 町民の自主性を促すため実施している実行委員会体制では、展示会等の会場設営に携わるなど文化祭への関わりが定着してきた。平成27年度からバザー会場を増やしてセルフサービス化し、人員不足の解消にもなった。

【内容】 ①各種作品展示（10月26日 9:00～15:00）453点 231人  
 ②お茶会（10月26日 10:00～14:30）  
 ③バザー（10月26日 11:00～14:00）  
 ④芸能発表会（11月3日 10:00～11:30）208人

【評価を踏まえた課題】 芸能発表会は、参加団体が1団体増えたが、令和2年度以降は多寄中学校の閉校による多寄支区PTAの縮小や、各団体出演者の高齢化、人数の減少が考えられるため、新たな参加団体を増やす取り組みを模索する必要がある。作品展示会についても芸能発表会と同様な事が言え、更なる声かけや、若い世代からの出展も今まで以上に取組まなければならない。バザーについては、平成27年度から増やしたバザー会場を従前の1箇所に戻したことで、受け渡しがスムーズになり問題が解決した。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

各団体・サークルとの協議を行い、公民館として行うことの出来る支援策を研究し、方策を具現化することにより各団体の活性化が図られる。

評価
A

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			温根別公民館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	①-4	市民の文化・芸術活動の推進 （温根別町民文化祭）	156	147

### 事務事業の概要

【目的】 文化活動の総合的な発表の機会を通して、町民の文化活動に対する意識を高め、地域文化の向上を図る。

【目標】 温根別町は農村地区であるため、農産物を活用した試食の提供や地元住民の文化や技量を活かした芸能を開催することで、地域資源を改めて再確認し、住民に「知る・学ぶ・伝える」を実践する。

【達成状況】 住民協働のもと、平成27年度から小学校学芸会と合同開催し、農産物を活用した試食や各種体験の実施等、地元文化の周知や住民の交流に十分な効果があった。

【内容】 ■作品展示（保育園・児童作品、ドライフラワー、パッチワーク等）  
出展者 18 件 作品数 119 点 入場者約 100 名  
■試食コーナー（雑煮 200 食、そば 120 食、どん菓子 100 食）  
■体験コーナー（餅つき・アイスクリーム・お茶会）体験者 136 名  
■芸能発表（温根別太鼓、踊り、カラオケ）  
出演者 54 名 入場者約 120 名

【評価を踏まえた課題】 小学校学芸会と合同開催することで、子どもから大人まで参加できる内容の文化祭として定着しているが、少し工夫が必要と考える。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

温根別の子供達に地域の文化である温根別太鼓を継承することができる。  
実行委員会と協議しながら、公民館としてできる支援を行うことにより、  
町民が一体となって交流し楽しめる文化祭を創る事ができる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			地域教育課（朝日公民館）	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	①-5	市民の文化・芸術活動の推進 （朝日町民文化祭）	198	181

事務事業の概要

【目的】 市民の文化活動の成果を発表する機会を設け、さらなる文化活動の促進を図る。

【目標】 舞台芸術、アート関係サークルの練習成果を発表することで、鑑賞者等にも自ら文化活動を行うきっかけを与える。

【達成状況】 展示では朝日地区オリジナルのものを毎年一つずつ実施しながら、地域の小中学校の児童生徒作品や高齢者教室等の公民館講座関係の成果も併せて発表している。

【内容】朝日町民文化祭

芸能発表 参加者 出演延べ 72 名・観覧者 230 名

茶会 来客者 77 名

展示 参加者 出展者延べ 345 名・観覧者延べ 283 名

特別展示(朝日地区住宅図と変遷) 57 点

高齢者教室、学校との協働事業等においてもアート系作品の製作体験等を実施し、これらの成果作品の展示も併せて行っている。

【評価を踏まえた課題】 参加者の高齢化、地域人口の減少により文化団体の活動が停滞化、または解散となる傾向が強くなっている。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

発表者のみならず、その成果を鑑賞する市民も多く、参加団体等の会員が増える機会であるほか、新たな団体が発足する機会ともなる。

評価

A

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			図書館・生涯学習情報センター	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	①-6	市民の文化・芸術活動の推進	80	76

### 事務事業の概要

#### 【目的】

市民の文化・芸術活動の推進として、作品の展示や各種講座の開催等を実施し、生涯学習のまちづくりを進める。

【目標】文化・芸術活動の推進を図るため、各種講座の開設や、鑑賞の機会を積極的に提供する。

【達成状況】日常的な生涯学習活動が文化・芸術活動につながり、展示の機会を得ることで、市民の文化・芸術に対する意欲の向上につながられた。

#### 【内容】

図書館において、子どもと大人を対象とした「手づくり絵本教室」、市内サークルとの共催による「紙芝居講座」の講習会を継続開催し、生涯学習情報センターでは「生涯学習フェスティバル」や、「いぶきギャラリー」を活用した市内サークル会員の作品展示、ワークショップのイベント、また、市内小学校で作成された作品の展示や学習成果発表についても継続実施した。

#### 【評価を踏まえた課題】

図書館及びセンターが主催し、継続開催しているイベントの内容について、検証をすることで、さらなるイベントの発展と意識向上を目指す必要がある。

#### 【見込まれる具体の成果】

#### 【事務事業の必要性】

■継続    □見直し    □廃止

市民が日々の生涯学習活動をとおして、文化・芸術活動を継続することにより、身近に感じられ、文化・芸術活動の活性化へとつながる。

評価

B



令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			地域教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	②	芸能・芸術鑑賞機会の提供	421	279

事務事業の概要

【目的】 土別市無形文化財である瑞穂獅子舞の伝承活動を促進する。また、優れた舞台芸術公演の鑑賞機会を提供し、文化活動の活性化を図る。

【目標】 将来にわたる伝承活動の継続と、伝承者の全市的な拡大を支援する。

身近に舞台公演等を鑑賞する機会を提供する。

【達成状況】 活動拠点となる瑞穂獅子舞伝習館の運営支援及び活動に関する情報の提供を継続的に行うほか、継続的な資料整理や各種イベント等への出演に際してマネジメントの支援を行っている。

各種助成金等を活用しながら優れた舞台公演の鑑賞機会を複数回にわたり提供している。

【内容】 施設の管理費等を予算措置し、活動に必要とされる情報の収集を進めるほか、今後の備品整備等の計画策定、助成等のアドバイスを行う。

芸術鑑賞機会はあさひサンライズホール自主企画事業、子ども芸術劇場等においても広く市民等に提供している。（市民の舞台芸術活動の支援と重複）

【評価を踏まえた課題】 中心となっている年代から次世代へのスムーズな伝承を目指して新規会員の募集支援や記録の保全。

友の会や SNS などを活用しながら新たな観客の掘り起こしを図る必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

日常的な稽古、活動に継続的支援を行うことにより、指定文化財の恒久的な伝承及び対外的な活動機会の増加が可能となる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			博物館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	③	しべつアーティスト・イン・レジデンス事業の実施	3,785	2,947

事務事業の概要

【目的】 土別市での芸術関連の取り組みを改めて広く地域住民に周知し、興味関心を持つ方の裾野拡大とともに、経験者の技術や知識、興味関心をさらに深める。

【目標】 芸術家の視点によって土別の自然や歴史、文化の特色や魅力を引き出すとともに、滞在中の各種活動を通して地域の人々が芸術に触れる機会を充実させる。

【達成状況】 版画家2名を招聘し、「土別の春」をテーマに作品を制作。多世代の市民を対象に、ワークショップを実施。しかし、新型コロナウイルスの影響により、ギャラリートーク、一般向けワークショップは中止し、成果展覧会のみ開催した。

【内容】 芸術家の滞在中には、地元農家や有志の自宅で民泊や、ワークショップの開催することで、地域との交流機会の増加に努めた。年度末に成果展覧会を開催したが、新型コロナウイルスの影響により、実施予定だったギャラリートーク、一般向けのワークショップは中止した。

【評価を踏まえた課題】 令和元年度で当該事業は終了したが、今後はこの事業をとおして、興味・関心を深めた市民の方々を巻き込んだ、芸術文化の発展に努めていく必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

芸術家との交流は、地域住民の文化・芸術に対する親しみや理解を深め、こうした市民を中心に、当該事業とは異なる形で継続することで、さらなる地域の文化・芸術の発展が期待できる。

評価

B

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			社会教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	④-1	文化団体が行う事業への支援	800	402

### 事務事業の概要

【目的】市の文化活動の中核的な役割を担う土別市文化協会が行う事業に支援を行うことで、土別市の文化振興の発展に寄与する。

【目標】土別市文化協会が実施する「60周年事業」及び「道北文化集会」の円滑な実施に向け、必要な財政支援を行うことで、本市及び道北地域の文化振興を図る。

【達成状況】8月に60周年記念事業、9月に道北文化集会が約700名の参加により盛会に開催された。

【内容】60周年記念事業の記念式典は8月11日に文化センターを会場に盛会裡に実施されたとともに、これまでの会の足跡を記した記念誌を発行した。

道北文化集会は9月8日に2市4町の文化協会会員が文化センターに一堂に会して実施された。会場では芸能発表や作品展示のほか、4つの分科会（俳句、短歌、詩吟、書道）の実施により交流と技術向上が図られた。

また、周年事業に関連して実施された「夏井いつき句会ライブ」は500人を超える入場により盛会となった。

【評価を踏まえた課題】文化協会に対する財政支援や事務補助を行ったが、今後に向け自主的な運営への体制づくりや事業の推進についての助言等が必要。

### 【見込まれる具体の成果】

### 【事務事業の必要性】

□継続 □見直し ■廃止

生涯学習の中心的な活動となる文化活動をきっかけに近隣市町村の文化協会との交流と技術向上が図られた。

元年度は周年行事や市町村持ち回り集会への単年度事業の支援であるが、土別文化協会との通年の情報共有や必要な連携は引き続き行っていく。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			図書館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	④-2	文化団体が行う事業への支援	0	0

事務事業の概要

【目的】

市内の各文化団体が実施する各種事業やイベントに対して、活動機会の提供や共催による事業の支援により、文化団体と活動の活性化を図る。

【目標】市内各文化団体の事業実施に関わり支援することで、生涯学習活動及び読書活動推進や図書館及びいぶきの利用の促進を図る。

【達成状況】図書館及びいぶきを利用している団体との共同による事業実施や、活動発表の機会の提供により、相互の事業の活性化が図られた。

【内容】図書館においては、読み聞かせサークルと年間を通じて共同で事業実施を展開し、サークル活動と読書推進活動が相乗的に実施した。

各種文化芸術作品の展示について、いぶきギャラリーの利用により、利用団体の負担軽減といぶきの利用向上を図った。

【評価を踏まえた課題】イベント実施時の利用調整や会場の準備等についても積極的に関わり、次回開催へとつながるよう取り組んだ。センター利用調整時に利用が少ない時期に、事業の実施や取り組んでもらえるよう、周知を図っていく必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

継続的に各文化団体との事業に関わることで、相互の活動の活性化と、新規事業の展開についても期待できる。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			地域教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	⑤	市民の舞台芸術活動の支援	62,825	60,620

事務事業の概要

【目的】 地域コミュニティ・アートの拠点として、鑑賞型及び参加型事業を実施することにより、優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、文化のまちづくりの推進に資する。

【目標】 あさひサンライズホールにおいては、身近に舞台芸術に触れ合える機会を恒常的に提供し、自らも舞台芸術の創造者となる場を創出する。  
 【達成状況】 平成15年度以降は積極的に演劇を中心とした事業展開を進めており、これらの結果として幅広い年代・地域の参加者が着実に増えている。学校との連携による授業でのワークショップなどを提供し、それらの発表の場としての舞台技術の協力体制なども行っている。市民を主体とした事業企画団体 ARCH あさひを立ち上げ、企画から運営までを市民共同で進めている。

【内容】  
 ●サンライズホール管理費 50,441 千円  
 ●ARCH あさひへの事業補助金などの自主企画事業推進費 7,016 千円  
     鑑賞型事業 9 本実施      参加型事業 1 本実施  
 ●子ども芸術劇場事業費(学校支援及び舞台芸術普及) 3,163 千円  
     舞台芸術 WS 69 コマ実施・延べ 2,216 名参加  
     舞台芸術学校公演 3 公演実施・延べ 268 名参加  
 【評価を踏まえた課題】 鑑賞型のみならず、体験を通じての舞台芸術との接点の機会を幅広く提供していくことにより、近隣を含む利用者、市民等のコミュニケーション創造の場としての事業を展開していく必要がある。

【見込まれる具体の成果】  
 事業が継続的に提供されていくことで、市民の多様なニーズに対応するとともに、新たな文化活動の創造を助長させることができる。

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

評価
A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			図書館	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
4	⑥	市民の読書・文芸活動の促進	909	675

事務事業の概要

【目的】

読書に親しむ事業及び文芸講座等を実施し、市民へ読書・文芸への意識・関心の向上と文芸創作活動の促進を図る。

【目標】読書に親しむことによる「活字離れ」の抑制と、文芸への興味と関心の向上を目指し、各種事業及び文芸講座を実施する。

【達成状況】読書推進活動事業の実施、市民文芸の発行により、読書への関心と文芸に対する意識と創作活動の向上が図られた。

【内容】こども読書週間での「としょかんクイズ」、秋の読書週間事業として、「みんなでつくろう！大型絵本」「ブックカバーかけ体験会」など、全国的に展開している読書週間事業を中心に本と読書にちなんだ、こどもから大人まで楽しめる事業を実施した。文芸活動の促進事業として、土別市民文芸第26号を発行した。

【評価を踏まえた課題】

読書普及に係る事業について、継続事業として実施している内容を実施後検証し、より読書推進につながる事業実施とする。市民文芸活動については、今回は一般応募による編集委員が編成され、市民による自発的な文芸活動が期待される。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

本に親しむことで、心のゆとりと家庭内外での本をとおしたコミュニケーションづくり、文芸活動の成果を形にすることによる、文芸活動の活性化。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課・社会教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
5	①	コミュニティ・スクールの推進と地域学校協働活動の展開	6,712	4,694

事務事業の概要

【目的】 学校と地域の連携を通じた教育活動の改善や充実に向けた取組を進めるとともに、地域で学校を支援する取組により地域のきずなを深める。

【目標】 小中学校の学校運営協議会の充実した開催と地域人材との連携による地域学校協働活動の充実を図る。

【達成状況】 全ての学校運営協議会会議に教育委員会職員を派遣して情報共有に努めるとともに、地域の支援が必要な活動に学校支援サポーターを派遣した。

【内容】 市街地4校と周辺4地区（上土別・多寄・温根別・朝日）に設置した学校運営協議会は、それぞれ4回実施（4回目は書面会議）し、学校運営の基本方針の承認や、学校と地域の連携による取組等について協議を行った。その協議のなかから、地域住民による通学時の見守り活動や学校周辺の環境美化活動に繋がった。また、コーディネーターの調整によって、水泳授業に55回、延べ99人、スキー授業に47回、延べ121人の学校支援サポーターを派遣した。

【評価を踏まえた課題】 学校や地域の課題解決に向け、引き続き協議会委員による話し合いを充実させる必要がある。また、研修などを通じて地域コーディネーターのネットワーク拡大やスキルの向上を図る必要がある。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

学校と地域住民・保護者が、子どもたちや学校の課題を知り、その解決策について話し合い、実行することによって、教育活動の改善や充実に向けた取組が進むとともに、地域の活性化が図られる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
5	②	学校現場における働き方改革の推進	0	0

事務事業の概要

【目的】学校における長時間勤務の解消など教職員の働き方を見直すことによって、心身ともに健康でいきいきと教育活動に取り組むことのできる環境づくりを進め、子どもたちの健やかに心豊かな成長を実現しうる教育の質の向上を図る。

【目標】昨年度策定した「土別市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」の着実な実施

- 【達成状況】
- ・校務支援システム等の導入と活用
  - ・コミュニティ・スクールによる外部支援体制の強化
  - ・適切な部活動休養日や活動時間の設定と完全実施
  - ・今後を見据えた部活動形態の検討と継続（部活動拠点校方式）
  - ・長期休業中における学校閉庁日の設定 等

【内容】基本目標である「一週間当たりの勤務時間が60時間を超える教職員を全校でゼロにする」を達成するため、「教職員が本来担うべき業務に専念できる環境づくり」、「部活動に関わる負担の軽減」、「勤務時間を意識した働き方や充実した学校運営体制の推進」、「教育委員会によるサポートの強化」について取り組んだ。

【評価を踏まえた課題】この計画を実効性のあるものにするためには、管理職の積極的な働きかけに加え、保護者や地域住民、関係団体等の理解促進が必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

学校現場における教職員の長時間勤務の常態化が緩和され、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる環境づくりに寄与する。

評価
B



令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			学校教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
5	③	学校適正配置計画の推進と学校施設・設備の充実	48,123	42,951

事務事業の概要

【目的】 義務教育の目的及び目標を実現・達成するため、教育環境の充実を図り、児童生徒が安全かつ快適に学校生活を送ることができるよう、環境を整備する。

【目標】 教育環境の充実を基本とした学校のあり方、児童生徒にとって望ましい学校教育の視点に立ち策定した学校適正配置計画を、地域と連携し円滑に推進していくとともに、老朽化・破損した学校施設を補修・改修し、安全かつ良質な学校を整備する。

【達成状況】 地域などから要望があった多寄中学校について、土別中学校と統合した。各小中学校において、施設の改修及び小破修理を実施した。

【内容】・多寄中学校閉校に伴う閉校式典開催と統合後の通学手段協議  
 ・土別南小学校放送設備及び音楽室カーペット更新  
 ・糸魚小学校体育館吊り天井撤去・土別中学校電話機更新 など

【評価を踏まえた課題】 保護者や地域住民と意見交換し、児童生徒の教育環境がより一層充実するよう、学校のあり方について協議を進める必要がある。  
 今後も学校と情報交換を行い、危険箇所の把握に努めながら、引き続き児童生徒が安全な学習環境で学校生活を送ることができるよう整備を進める。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

保護者や校区住民と意見交換を行い、必要に応じ適正配置計画を見直すことで、より良い教育環境を実現することができる。体育館吊り天井の撤去により、地震が起こった際に、児童生徒や教職員が下敷きになる危険性が低下した。また、機器の更新により学校施設が快適に使用できるようになった。

評価

B

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			合宿の里・スポーツ推進課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
5	④	スポーツ施設の整備	13,721	12,122

事務事業の概要

【目的】市内スポーツ施設の総点検を実施し、士別市全体のスポーツ施設の現状を把握し、今後の整備計画の総合的な検討のもとに充実を図る。

【目標】老朽スポーツ施設の今後の方向性や新規スポーツ施設の検討や大規模改修を総合的に検討し、年次的に施設の整備計画策定を検討する。

【達成状況】市内スポーツの施設の状況を把握しながら、市民や合宿者ニーズに合わせて整備する。

【内容】公共施設マネジメント計画を基本にしながら、「士別市まちづくり総合計画」や「ステップアッププラン」に基づき、施設整備計画を進めた。

- ・三望台シャンツェ送水管取り換え工事
- ・日向スキー場第2リフト常用制動機・非常用制動機・油圧ユニット整備工事

【評価を踏まえた課題】時代の変化に対応した施設の環境整備を進めることが課題である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

総合的な視点によるスポーツ施設の整備。

評価

B

## 令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			市民文化センター・地域教育課・博物館・社会教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
5	⑤	社会教育施設の整備	29,901	25,332

### 事務事業の概要

【目的】文化センターなどの社会教育施設の利用者に対し、快適かつ安全な環境を提供するとともに、今後においても公共サービスを継続する体制を構築することで、市民の学習環境の維持・向上に努める。

【目標】文化センター整備事業の円滑な実施。社会教育のサービス水準を維持継続するため、持続可能な体制づくりに努め、サンライズホールの指定管理導入を検討する。

【達成状況】予定どおり施設整備を実施し、次年度以降の施設管理体制に向け開館時間の見直しなどを行い、サンライズホールの指定管理に道筋をつけた。

【内容】文化センター整備：大小ホール緞帳等操作制御部修繕(10,584千円)、大小ホール調光操作卓購入(9,720千円)、大ホール用ミキサー卓購入(1,448千円)、大ホール用ピンスポットライト購入(2,448千円)、パワーアンブ購入(1,132千円)

- ・サンライズホールの指定管理制度の導入に向けた協議
- ・文化センターホール舞台技術管理業務委託に向けた協議
- ・文化センター及びサンライズホールの閉館時間の見直し
- ・博物館の利用傾向の分析
- ・まなび☆ガイドの作成・周知（つくも青少年の家体験プログラムの継承）

【評価を踏まえた課題】社会教育施設は築後20年以上が経過しているため、計画的な施設整備と持続的な体制整備について引き続き検討が必要である。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

社会教育施設の利用者に対し、快適かつ安全な環境の提供と持続的な施設運営を行うことで生涯学習の推進に寄与することができる。

評価

A

令和元年度 事務事業点検・評価調書

事務事業実施課			社会教育課	
			事業費（千円）	
施策	事業	事業名	予算額	決算額
5	⑥	青少年健全育成に向けた啓発活動の実施	78	64

事務事業の概要

【目的】青少年の心と体への健全な発展を促し、自主性・社会性や正義感・倫理観を持った豊かな人間性を育む。

【目標】情報紙の発行などを通じて、啓発活動の充実を図り、青少年の健全育成に努める。

【達成状況】青少年健全育成標語コンクールの実施（市内5校から351点）、土別市少年の主張大会の開催（5校から5名）及び少年の主張上川地区大会への派遣（1名）、青少年指導センターだより「のぞみ」の発行（年2回）、スマートフォン等情報通信機器の利用に関するアンケート調査の実施（1回）

【内容】青少年健全育成標語コンクールを実施することで意識啓発に努めた。また、少年の主張土別地区大会を開催し、最優秀作品を次年度の少年の主張上川地区大会へ土別市の代表として推薦することを決定した。指導センター情報紙「のぞみ」を夏・冬の長期休業前に発行し、児童生徒に加え、デパートやコンビニにも配布した。また、スマートフォン等の利用に関するアンケート調査を実施し、その結果を市ホームページに掲載することで啓発に努めた。

【評価を踏まえた課題】青少年健全育成にかかる情報を的確に伝えるため、関係機関の刊行物・発行時期の把握に努めることや啓発方法としてインターネットやSNSなどを効果的に活用する検討も必要であると考えます。

【見込まれる具体の成果】

【事務事業の必要性】

■継続 □見直し □廃止

青少年指導センターの情報紙は、各家庭のほか商店等へも配布していることから、地域全体に青少年健全育成や非行防止に向けた情報提供ができています。

評価

B